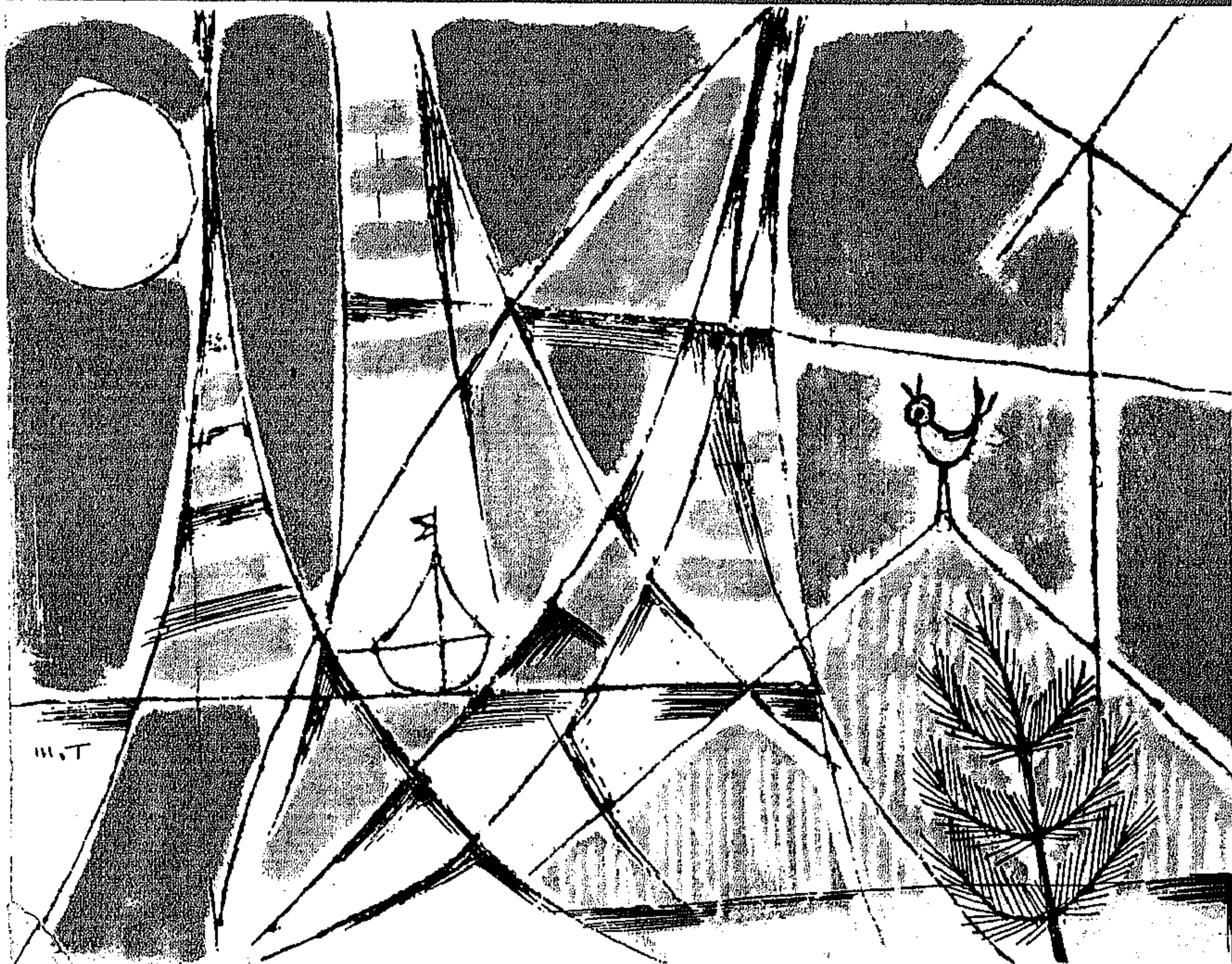


婦人少年者

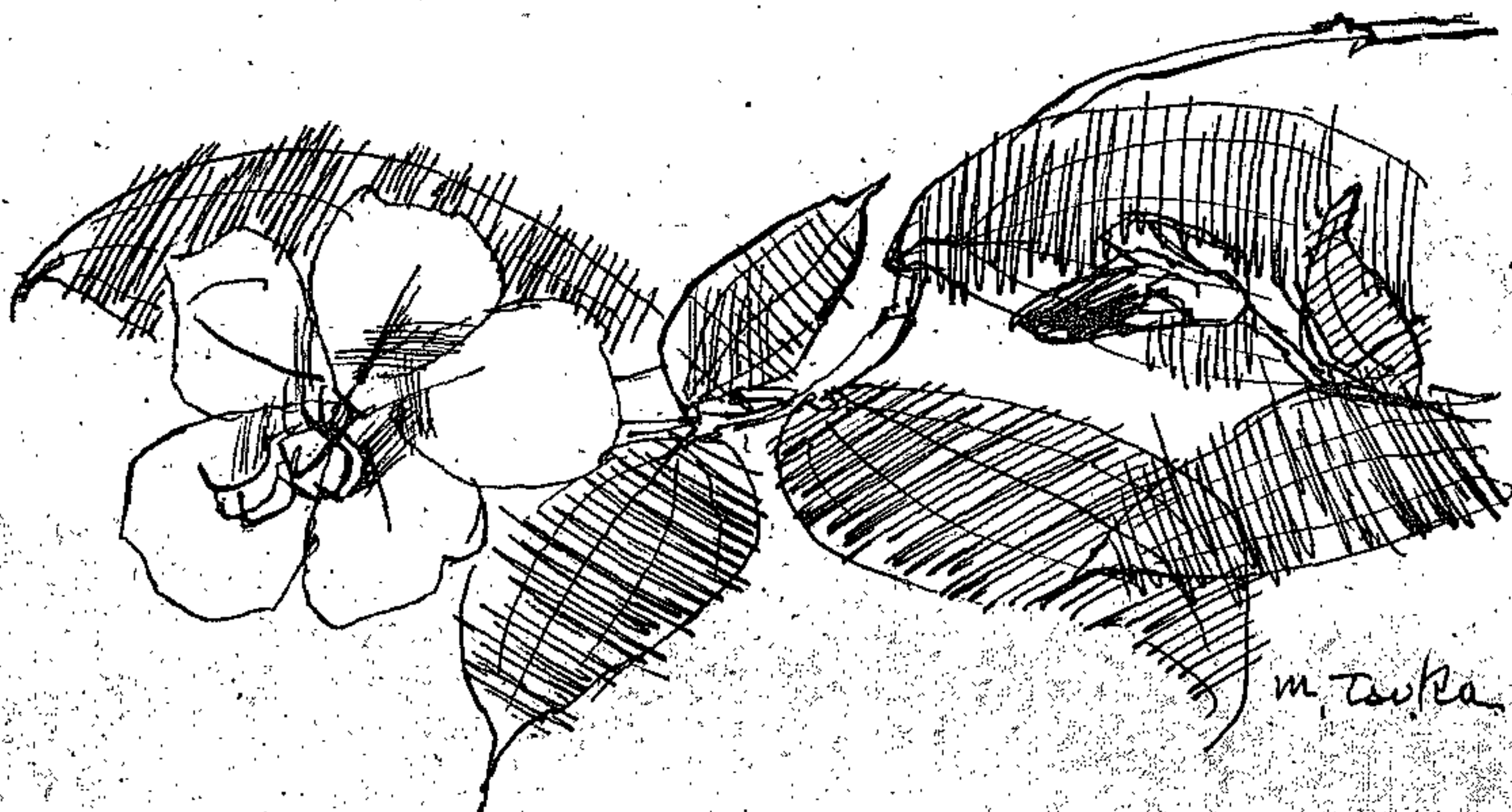


第18回働く年少者の保護運動

- ◆年少労働者の能力開発について
- ◆年少労働者の現状〈資料〉
- ◆年少労働者の生活と意識〈資料〉

10 1964

婦人少年協会



婦人と年少者 十二巻十号 目次

◆特集・第18回働く年少者の保護運動

働く年少者の 五島貞次 2

能力開発について 高橋健二 5

働く少女の生活文を読んで 高橋健二 5

第18回働く年少者の保護運動の趣旨について 7

第18回働く年少者の保護運動実施要綱 7

わが社の年少者に対する技能指導の経験から(田島製作所) 延原誠二 9

わが社における若年者管理の実際 Aオリジン電気 高橋 壱 11

「働く少女の生活文」昭和三十九年度受賞作品より 13

*オシャカの教訓 秋山尚司 13

*私の一日 宮本末子 14



年少者の能力開発について

五 島 貞 次

民族的エネルギーの浪費

もし後世の歴史家が、現代のわが国の様相を遠慮会釈なく批判してみたいという欲求に駆られ、ズバリと急所を突こうと思つたならば、つぎのようにかもしれない。

一九五〇年から六〇年代にかけての、少なからぬ日本人たちは、観念的、公式的な平等観に熱病のように取りつかれ、若い男女の多くはなにがなんでも大学に行かなければとあせるか、あるいは親たちに哀願されて、やむをえず大学へ行かざるをえなかった。かくて、当時の日本はアメリカ第七艦隊のカサのなかで国防費を節約できたおかげで、世界に類のない高い経済成長率をほこっていたが、若い男女の能力の開発

なのである。不安定な十代において、労働することがもつともよい助けとなる場合、有益な仕事につくのを妨げるとは間違っている。十四歳になって学校が不愉快になる青年は、追い出されて自分の力だけに放任されるべきであるというのではなく、就学の延長が利益とならないような少数者のために、すべての社会は第二の進路をつくってやるべきなのである。(大来佐武郎氏の訳より)

あやまった「平等化要求」

平等とはなんでもかでも同じ処遇を受けることではない、ということ、若い人たちに納得させるのは、いまのわが国においてはそうたやすいことではない。熱病のようにひろがった平等化要求は、選挙権のように平等であるべきものと、教育のように平等であってはならないものとを区別する良識や理性をマヒさせつつあるように思われるからである。だれでも差別なしに同じあつかいをするのが平等である、というのなら、たとえば労働基準法のように、女性や年少者に特別の保護を加えるのは、不平等ということになる。身体障害児や精神薄弱児のために、特殊学級や養護学校をつくったり、身体不自由児施設や精神薄弱児施設を設置

では、高校を早く義務制にし、先進国や後進国に「教育日本」の威容をはこりたいかもしれないが、義務制にしないで、本来に高校に進学する能力と意欲をもつものには、社会保障や奨学制度を充実することによって、進学の途を開くことができよう。そうした施策の充実こそ先決というべきである。

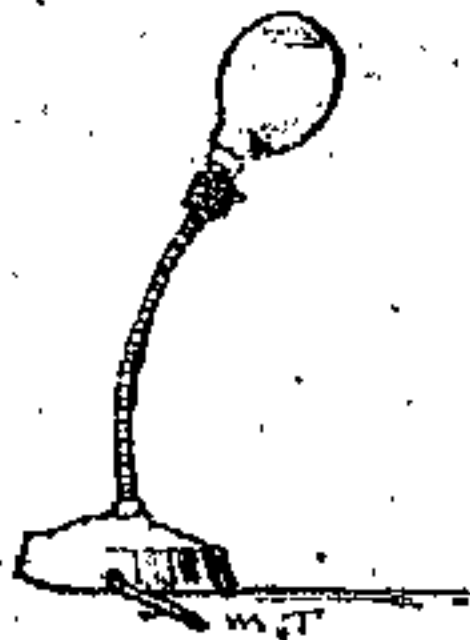
能力と適正の発見が先決

そればかりではない。高校の画一的、一般教養的教育よりも、中級技能者をつくる専門的な訓練・教育を受けた人間への需要は、今後強くなっていくのではないかと思われる。また、中学を出たあと職場の実地訓練・教育によって、その職場に必要な人間を確保するやりかたが、次第に普遍化する兆候もみられる。ある医療機関では高度の技能をもつ看護婦よりも、看護婦あるいは看護助手をより必要としている、といていたが、こうした傾向は、いまのような高校進学一辺倒主義に反省を迫るであろう。

中学についても、義務教育ではあるが、一律的な教育方式に再検討を加えなければならぬ時期にきている、といえよう。就職組と進学組に分けることは、やりかたしだいでは弊害を伴な

働く年少者の

生活文を読んで



高橋 健 二

今年もヨーロッパのあちこちを旅行している間、行くさきさきで、大小さまざまな日本製品を見て、誇らしくも、たのしくも感じた。

もう数年も前、ドイツの小さな町なか町の料理店で、日本のミカンのかんづめを出された。こんなへんぴなところまで日本品が来ているのか、と旅情を少なからずなぐさめられた。また、ひところ、レンズの国ドイツに日本の望遠鏡がたくさんはいって来たことがあった。写真屋にフィルムの現像をしてもらいに行くと、その場で日本製の望遠鏡を買って行くドイツ人に

いくども出くわした。今でも日本の望遠鏡やカメラはドイツの店頭によく見られる。このごろは特に日本のトランジスタやテレビをよく見る。日立や東芝のネオン

